

# 元気な医院

③



デンタルタイアップ  
代表

小原 啓子

とつてく感じの

質問を繰り返すことで、院長の隠された歯科医師としての根底部分が見えてきます。

単純にインプラントがしたいと言うだけでは、近くにいるスタッフには「うちの院長は金儲けのためにインプラントを行っている」と思われてしまいますが、じっくり聞くと、院長は歯科医師のプライドにかけて、社会に貢献できることがインプラントだと再認識されています。要は、院長の言い方、スタッフの聞き方です。

院長の言うことがコロコロ変わると訴えるスタッフがいいます。そんな時ほど「院長、それはなぜそう思われるのですかと聞き返してほしいのです。

本音の部分は「なぜ」を5回繰り返した時に初めて根幹部分に行きつくと言われています。

苦しそうな声になります。

「そうですね」「……。ウーン、そんなことはない」「それでは、何のためですか」

院長との理念設定の話し合いをしている場面を想定していただき。最初にこのような質問をしました。

「先生はどのような歯科医院をおつくりになりたいですか」

この質問に対し、少し時間をおいて院長から次のような回答が返ってきました。

「インプラントを普通にできる歯科医院にしたい」

更に質問を続けます。

「どうしてですか」

「経営的に安定するからだ」

「そうですね。経営が安定せんと……。」

## 本当の意味

「患者さんが喜んでくれるんや。若い時と同じものが食べられる。元気になって、生活にも張りが出たと」

「そうですね。インプラントは患者さんに喜んでいただけるからこそやりたいと思われるのですね」

「そうですね、その通りや。歯科医師冥利に尽きるんや。歯科医師になってよかった」

(月1回掲載)

